

日医ニュース

2025. 5. 20 No. 1527

発行所

日本医師会
Japan Medical Association〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail wwwinfo@po.med.or.jp
https://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



松本会長

医療機関の厳しい経営状況を踏まえ
補助金と診療報酬の両面からの対応を
改めて要望医療をめぐる最近の情勢
について

— 松本会長 —

松本吉郎会長は4月23日、記者会見を行い、医療機関の著しく逼迫した経営状況など医療をめぐる最近の情勢について説明。これらの状況を打開するため、補助金と診療報酬の両面からの対応を改めて強く求めた。

した結果が示されているが、特に「最頻値」では、病院・診療所いずれもマインス圏内に落ち込む見通しとなったこと等を説明。「令和6年度診療報酬改定後に経営状況が著しく悪化している」との見方を示した。

更に、平均値や中央値も悪化していることを指摘した他、同様の形態である法律事務所、社会保険労務士事務所等と診療所の経営状況を比べた場合、診療所が極めて低い状況にあることを説明。「病院だけでなく診療所の経営状況も厳しい状況にある」とした上で、改めて賃金上昇と物価高騰、更には日進月歩する医療の技術革新へ対応するためには十分な原資が必要であるとして、経済成長の果実を活用するなど、補助金や診療報酬両面による機動的な対応を求めるとともに、著しく逼迫した経営状況を鑑みれば令和8年度診療報酬改定の前に、期中改定も必要な状況にあるとした。

「公助」「共助」「自助」への考え方

更に松本会長は、これ

まで日本医師会が、医療

財源は「税金による公助」

「保険料による共助」「患

者の自己負担による自

助」の三つのバランスを

取りながら進め、自己負

担のみを上げないこと、

併せて、低所得者への配

慮が重要であると主張し

てきたことを紹介。

「公助」については、

昨今、税収が増加してい

ることから、税収増加分

を社会保障関連、特に医

療へ更に投入することが、

適切な医療を提供する

上で欠かせないとの見

方を示した。

「共助」については、

他産業では賃上げが行わ

れており、現行の保険料

水準のままでも税収が増

加していると指摘。「医

療保険財政を守るため

も、政府の求める賃上げ

をしっかりと進めていく

ことは極めて重要」と述

べるとともに、こうした

公助、共助の経済成長の果実を、医療を始めとする社会保障に活用し、経済を更に好循環させていく必要があるとした。

「自助」については、丁寧な議論を重ねることを前提とした上で、今後、応能負担が求められる可能性があると述べた。

（3）では、出生数に好転の兆しは見えておらず、著しい人口減少により対象者が激減していることを説明。小児医療・周産期体制については、救急医療を中心に単純に集約すればいいという考えではなく、全国津々浦々で対応するための強力な方策を構築する必要があるとした。

その上で、この10年間で、消費税率引き上げによる国民負担の引き上げを始め、医療においてもさまざまな適正化と称した改革がなされた結果、直近の2022年のデータでは、高齢化率が高いにもかかわらずOECD諸国並みとなっており、日本の社会保障の給付と負担のバランスは改善されていると説明。「こうした現状も見ずに、あたかも社会保障支出の膨張によって給付と負担のバランスが悪化し続けているかのように主張するのは、もはや卑劣であると言わざるを得ない。医療費削減ありきで議論を進める姿勢は改めるべき」と強く主張した。

松本会長は最後に、財政健全化の立場から小さなリスクは自助とすべきとする主張が一部にあることに対して、日本医師会は反対の立場であることを表明。「大きなリスクは小さなリスクから生まれるものであり、両者を線引きすることは不可能」とするとともに、国民生活を支える基盤として、「必要かつ適切な医療は保険診療により確保する」という国民皆保険制度の理念を今後とも堅持し、給付範囲を縮小すべきではないとした。

釜范副会長出演動画を
公式YouTubeチャンネルで
公開中!!

釜范敏副会長が、「職場における熱中症対策」について、産業医向けに分かりやすく説明した動画を日本医師会公式YouTubeチャンネルに掲載しています。ぜひ、ご覧下さい。

釜范副会長
出演動画

日本医師会
第14回 **赤ひげ大賞** 候補者募集中!!

—身近にふさわしい先生がおられましたら
都道府県医師会にお知らせ願います—

日本医師会では、第14回「日本医師会 赤ひげ大賞」の実施を決定し、各都道府県医師会長宛てに本賞への推薦依頼文書（5月1日付）を送付しました。

本賞は、地域の医療現場で健康を中心に地域住民の生活を支えている医師にスポットを当て、その活躍を顕彰することで、各地の医療環境整備、医療活動の充実に寄与することを目的として創設したものです。

本年7月末まで各都道府県医師会長より推薦を受け、11月に選考会を、令和8年2月に都内で表彰式を行う予定。「赤ひげ大賞」には5名を選定し、惜しくも大賞受賞とはならなかった候補者にもその功績を称え、「赤ひげ功労賞」を贈呈しています（概要は、以下のとおり）。

本賞は都道府県医師会長の推薦が必須となっておりますので、身近にふさわしいと思われる先生がおられましたら、ぜひ、都道府県医師会にお知らせ願います。

◆主催：日本医師会、産経新聞社

◆後援：厚生労働省（予定）

◆協力：都道府県医師会

◆特別協賛：太陽生命保険

◆対象者：日本医師会員あるいは都道府県医師会員で現役の医師。ただし、現職の日本医師会・都道府県医師会役員は除く。
※過去の受賞者については赤ひげ大賞の公式ホームページをご参照願います。



公式
ホームページ

◆推薦方法：本賞にふさわしいと思われる方1名を各都道府県医師会長が推薦。
※「赤ひげ功労賞」受賞者を「赤ひげ大賞」候補者として再度ご推薦頂くことも可能ですが、「赤ひげ功労賞」の贈呈は1回限りとなります。

◆推薦基準：病を診るだけではなく、地域に根付き、その地域のかかりつけ医として、生命の誕生から看取りまで、さまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師。

◆受賞者発表：日本医師会記者会見及び産経新聞紙上

◆賞と賞金：大賞受賞者には賞状と記念品及び賞金100万円、功労賞受賞者には賞状を贈呈します。

◆問い合わせ先：日本医師会広報課
(☎ kouhou@po.med.or.jp)



医学生で埋められた大講堂

映画「フロントライン」の特別試写会が4月25日、約700名の応募者の中から抽選で選ばれた約350名の医学生の参加の下、日本医師会館大講堂で開催された。



松本会長

生じた大型クルーズ船で、乗客らの命を救うために懸命に取り組んだ医師や看護師らの姿を描いた作品となっている（6月13日から全国公開される予定）。

今回の特別試写会は日本医師会が本映画の後援を予定している。この映画は、(1)「開業医の団体」と思われがちであるが、会員に占める割合は勤務医の方が高い、(2)「国民の皆さんの生命と健康を守るため、各地域において学校医や産業医、休日夜間診療などに従事している医師の支援の他、医療現場の声を政府に届けるなど、さまざまな活動を行っている——ことなどを紹介。「今回の試写会を

きっかけとして、少しでも医師会に興味を持ってもらえればありがたい」と述べるとともに、近い将来、参加した医学生と一緒に地域医療に取り組むことができるよう期待を寄せた。

引き続きあいさつした釜淵敏副会長は、大型クルーズ船で集団感染が起きた当時の模様を振り返り、どんなウイルスなのかも分からない中で、船内の乗客らの生命を守るため、懸命に取り組んだ医療従事者達の対応に改めて感謝の意を表明。また、日本医師会の役割についても「国民の生命と健康を守るばかりでなく、医師の活動をしっかりと支えていくことも大きな役割となっている」とし、「そのことをぜひ、覚えて帰って欲しい」と述べた。

その後映画の上映が行われたが、参加した医学生は皆真剣な表情で映画に見入り、鑑賞後には多くの医学生から、「報道でしか分からなかった当時の苦勞が改めてよく

医学生を対象として
映画「フロントライン」の特別試写会を開催

をしているところから、全国公開に先駆け開催することになったものである。

当日は黒瀬



釜淵副会長



黒瀬常任理事

日本医師会

定例記者会見

4月23日

篤志^{とくし}解剖全国連合会等 策定の「献体解剖倫理指針」 を紹介



松本吉郎会長は、篤志解剖全国連合会、日本篤志献体協会、日本解剖学会の三者合同で、「献体解剖倫理指針」が策定、公表されたことを紹介。医療界全体として共有していく意向を示すとともに、医療を代表する学術団体として国民に対し、献体という尊い^{とく}仕組みを今後適切に守っていく決意を表明した。

松本会長はまず、医学教育に欠かすことのできない解剖実習は、そのほぼ全てが「献体」として、死後自らの遺体を医学研究のために提供して下さる方々の尊い遺志によって支えられており、解剖実習に参加する学生、指導する教員・関係者は、ご遺体に対する敬意と感謝の気持ちを常に抱かなくてはならないとの考えを示した。

その上で、本指針の策定に至る背景に関して

ている」と説明した。

また、策定には直接関わってはいないものの、今回指針を紹介した理由については、「日本医師会としても献体解剖をめぐる不適切な事案は、医師の倫理にもとる憂慮すべき事態であり、ご遺体に対する礼意の保持は医学を志す者としての出発点ともいえる基本的事項であると考えており、その趣旨に賛同し、本会会員を始め広く医療界全体で共有すべき事柄であると判断したためである」とし、メディアに対しても国民への周知に対する協力を求めた。

医療機関勤務環境評価 センター業務の現状を説明



城守国斗常任理事は、医師の働き方改革の制度が令和6年度に施行されてから1年が経過したことを踏まえ、医療機関勤務環境評価センター（以下、評価センター）の業務状況について報告した。「評価受審申込件数の

とした。

また、昨年度の「指定申請予定の特例水準」は、制度開始前同様でB水準が最も多く、「指定申請予定の特例水準の組合せ」でもB水準のみの申請が最多となり、「評価資料提出から結果通知までに要した期間」のこれまでの平均は144・9日、評価結果までに要した期間については最短期間、最長428日であったとした。

こうした状況を受けて、同常任理事は「今後、医療機関が指定更新に向けた評価受審をする際には、勤改センターの適切な介入・支援を受け、評価センターが提供する『評価項目と評価基準の解説集』の改訂版を基に準備して評価に臨んで欲しい」と要望。今後の評価に向けたスケジュールについては、特例水準の指定の有効期限が令和9年3月末となっている医療機関の受審に関して、今年8月、9月を予約受付期間として予約枠を確保し、10月より更新評価を受審できるよう準備を進めているとした。

その上で、同常任理事は「評価センターでは、今後、指定更新に向けた医療機関の医師の労働時間短縮のための取り組みを評価するに当たり、医

健康経営優良法人2025 「ホワイト500」に 初認定を受ける

城守常任理事は、経済産業省が行っている「健康経営優良法人2025」において、日本医師会が大規模法人部門の上位500社が選ばれる「ホワイト500」に初めて認定されたことを報告した。

同常任理事は、まず、「松本会長を筆頭に、役員が丸となって健康経営の推進を図り、効果的・効率的な健康保持増進活動を展開してきた」と説明し、そうした取り組みが、前年度の上位501～550位圏内から451～500位圏内への順位アップにつながったとした。

また、地域の医師会では大規模法人部門に姫路市医師会（兵庫県）「半田市医師会（愛知県）」「益田市医師会（島根県）」が、中小規模法人部門のネクスト1000



「日本医師会ペイシエントハラスメント・ネット上の悪質な書込み相談窓口（日医ペイハラ・ネット相談窓口）」を運用中!!

日本医師会では、「日本医師会ペイシエントハラスメント・ネット上の悪質な書込み相談窓口（日医ペイハラ・ネット相談窓口）」の運用を行っています。

「日医ペイハラ・ネット相談窓口」は、昨今増加しているインターネット上の悪質な書込みを含むペイシエントハラスメント全般に関する会員の先生方などからのご相談に対応するために開設したものです。お困りの際はぜひ、ご活用下さい。

- 利用対象者 日本医師会員及び会員が開設・管理している医療機関または介護サービス施設・事業所の従事者
- 相談受付方法 WEBフォームまたは電話（電話受付時間：平日の午前9時～午後6時）
- 担当課 日本医師会情報システム課、医事法・医療安全課

※なお、WEBフォーム及び電話番号は日本医師会ホームページ内のメンバーズルームに掲載しているため、日本医師会会員用アカウント（ユーザー名、パスワード）が必要となります。

https://www.med.or.jp/doctor/sonota/sonota_etc/011988.html



令和7年度都道府県医師会広報担当理事連絡協議会

SNSを活用した広報の好事例を共有



の手段も変わりつつある中、日本医師会でもSNSを使った広報に取り組んでおり、日本医師会公式YouTubeチャンネルの登録者数が1万2000名を、日本医師会LINE公式アカウ

ンの友だち登録者数も4万名を超えたことを説明し、その効果が

の開封率などにおいて、目に見える形で成果が上がっているとした。

YouTubeが多くの「情報伝達の速さ」再生件数などによって、二

手医師との「つながり」を重視し、医師会をより身近に感じてもらうためのツールとして、2023年4月から「KMA.com」を立ち上げたとした。

他、沖縄県には小児医療関係者が議論する場がないことから、「沖縄県小児医療協議会」の設置を目指すとした。

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

YouTubeチャンネルの登録者数が1万2000名を、日本医師会LINE公式アカウ

の友だち登録者数も4万名を超えたことを説明し、その効果が

の開封率などにおいて、目に見える形で成果が上がっているとした。

YouTubeが多くの「情報伝達の速さ」再生件数などによって、二

手医師との「つながり」を重視し、医師会をより身近に感じてもらうためのツールとして、2023年4月から「KMA.com」を立ち上げたとした。

他、沖縄県には小児医療関係者が議論する場がないことから、「沖縄県小児医療協議会」の設置を目指すとした。

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

YouTubeが多くの「情報伝達の速さ」再生件数などによって、二

手医師との「つながり」を重視し、医師会をより身近に感じてもらうためのツールとして、2023年4月から「KMA.com」を立ち上げたとした。

他、沖縄県には小児医療関係者が議論する場がないことから、「沖縄県小児医療協議会」の設置を目指すとした。

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

YouTubeが多くの「情報伝達の速さ」再生件数などによって、二

手医師との「つながり」を重視し、医師会をより身近に感じてもらうためのツールとして、2023年4月から「KMA.com」を立ち上げたとした。

他、沖縄県には小児医療関係者が議論する場がないことから、「沖縄県小児医療協議会」の設置を目指すとした。

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

YouTubeが多くの「情報伝達の速さ」再生件数などによって、二

手医師との「つながり」を重視し、医師会をより身近に感じてもらうためのツールとして、2023年4月から「KMA.com」を立ち上げたとした。

他、沖縄県には小児医療関係者が議論する場がないことから、「沖縄県小児医療協議会」の設置を目指すとした。

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

YouTubeが多くの「情報伝達の速さ」再生件数などによって、二

手医師との「つながり」を重視し、医師会をより身近に感じてもらうためのツールとして、2023年4月から「KMA.com」を立ち上げたとした。

他、沖縄県には小児医療関係者が議論する場がないことから、「沖縄県小児医療協議会」の設置を目指すとした。

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

YouTubeが多くの「情報伝達の速さ」再生件数などによって、二

手医師との「つながり」を重視し、医師会をより身近に感じてもらうためのツールとして、2023年4月から「KMA.com」を立ち上げたとした。

他、沖縄県には小児医療関係者が議論する場がないことから、「沖縄県小児医療協議会」の設置を目指すとした。

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

YouTubeが多くの「情報伝達の速さ」再生件数などによって、二

手医師との「つながり」を重視し、医師会をより身近に感じてもらうためのツールとして、2023年4月から「KMA.com」を立ち上げたとした。

他、沖縄県には小児医療関係者が議論する場がないことから、「沖縄県小児医療協議会」の設置を目指すとした。

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

出された質問に対し、講師と日本医師会役員から回答が行われた。

で、横展開も可能なものだと指摘。日本医師会としても引き続き、各種課題について広報委員会

医師会が行った「機器を用いた脊柱側弯症検診アンケート調査」の結果について報告。検査結果の判読者や機器ごとの有

令和7年度学校保健講習会

「学校健康診断に関する諸課題について」をテーマに開催



の講演が行われた。

「医師の負担を軽減するためには、機器を用いた検査による精度の向上は

初等中等教育局健康教育・食育課

学校保健対策専門官は

学校保健施策の動向について報告。

学校保健統計調査によると、

視力1・0未満の園児及び学生の割合が上昇傾向にあるが、9都道府県の

約8600・8900名を対象に令和3・5年の

3年度にわたって実施された近視実態調査では、

視力低下・近視の予防のために屋外活動が重要であることが明らかに

なっているとした。

更に、脊柱側弯症の検査については、全国1806の教育委員会を対象とした調査を行い、139の教育委員会から「検査機器を導入済み」と回答があったことを説明。

特に秋田県、千葉県、愛媛県では6割以上の教育委員会が導入していることを報告した。

シンポジウム「北から南から」

続いて行われたシ

「シンポジウムでは、笹本洋一常任理事／北海道眼科医会長が北海道における眼科学校健診の現状を解説。眼科医による健診を実施している自治体は179市町村のうち97市町村(54.2%)であり、眼科医不在の自治体が多い上に、他の自治体から健診に来てもらうとしても、移動距離が長く医師の負担も大きくなっているとした。

講演

また、「眼科学校健診の項目は当初の感染症予防から、近視進行抑制など、視機能の管理に軸足を置くための項目へと見直すことが必要になってきている」と述べた。

坂東伸幸北斗病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科副院長は、同じく北海道の耳鼻咽喉科に関する学校健診の現状について報告。北海道は市町村数が非常に多いことから健診が広がりやすく、更に耳鼻科医が札幌市と道央に偏在していることから、耳鼻科学校健診の実施状況にもその影響が出ているとした。

真栄城徳秀真栄城耳鼻咽喉科院長は、沖縄県における耳鼻咽喉科学校健診について、実施率が全国平均の88.8%に対し沖縄県は37%と著しく低いこと、また、耳鼻咽喉科学校医の配置状況については全国平均が79.8%であるのに対し、沖縄県はわずか2%という

深刻な状況を報告。これらの要因としては、学校医複数制導入時に沖縄県がアメリカの統治下にあったことや、教育委員会の認識不足、耳鼻咽喉科医の不足などが挙げられるとし、今後の対策として①法改正への提言②教育委員会への啓蒙活動③耳鼻咽喉科医の意識改革が必要と述べた。

これまでに2万名以上の子どもが参加し、不登校の早期発見・予防的介入に成功していることを報告。更に、8000名の子どもを対象に「こころの学校健診」を行った結果、早期医療介入群では就寝時刻が早まり、無欠席の子どもが増加したことなどを挙げ、その成果を強調した。



令和7年度シンポジウム「未来ビジョン」若手医師の挑戦」へき地医療の魅力や多様な働き方など 若手医師の取り組みを紹介しつつ意見交換

笹本洋一常任理事の司会で開会。冒頭のあいさつで松本吉郎会長は、「近年、医療を取り巻く環境は急速に変化しつつあり、課題も山積している。その解決に向けては、熱意をもった若手医師のさまざまな取り組みがヒン

トとなり、次世代の医療を牽引していく」と力説。本シンポジウム「未来ビジョン」若手医師の挑戦」が4月19日、日本医師会館小講堂で開催され、ZoomとYouTubeでLIVE配信された(当日の動画(全6本)は公式YouTubeチャンネルに掲載)。

「支えて下さる方々への感謝を学ぶ場としての医師会」

村上学(北海道医師会常任理事／北海道大学大学院医学研究科医学教育・国際交流推進センター准教授

村上学は、北海道医師会常任理事、北海道大学大学院医学研究科医学教育・国際交流推進センター准教授として、若手開業医と若手専門委員会委員との懇談会などを行ったとし、「ネットワークづくりをできるのが医師会の魅力。今後も若い医師を支える活動に力を入れていきたい」とした。

また、釜淵敏副会長はビデオメッセージで、「わが国の人口の構成は今後大きく変わり、またそれぞれの地域によって求められる医療の内容が異なる」と述べ、多方向にわたる取り組みが紹介される本シンポジウムの意義を強調した。

(2) へき地で活躍する若手医師の取り組み

佐藤優子(浜田市国保診療所連合体波佐診療所長

佐藤所長は、東京生まれ東京育ちでありながら、初期研修医時代の地域医療研修で山奥の国保診療所に行ったことがきっかけで、患者を家族丸ごと診るへき地医療に魅力を感じ、医師の夫と当時4歳と0歳だった子どもを連れて島根県浜田市に「一ターンのことを紹介。市の中心部から遠い波佐・小国地区の500名強の地域住民を対象に外来や訪問診療を行い、休日夜間は「浜田市国保診療所連合体」で対応している」と説明した。

(3) 二足の草鞋を履く若手医師の取り組み

「唯一無二!? 脳外科医とデザイナー、二刀流の生き方」

折居麻綾(横浜フロンティア脳神経外科 泌尿器科院長／D・まあやデザイン研究所) 学院での研究の行き詰まりや脳外科医のセカンド

キャリアについて悩んでいる中で、以前から興味があった服飾の勉強を始めることを思い立ち、ロンドンに留学した経緯を説明。

帰国後は脳外科医に復帰しつつ、スタイリストのアシスタントとして学び、2013年に「D・まあやデザイン研究所」を設立、本格的にファッションデザイナーを始めたとし、テレビで取り上げられたことを契機に知名度を高め、ニューヨークやパリのコレクションで

(4) 先輩医師から若手医師へのエール

加藤則人(京都府医師会理事／京都府立医科大学 北部キャンパス長

加藤理事は、京都府医師会では「京都府全体で良医を育てる」を理念に掲げ、行政・臨床研修指定病院と連携して研修医の育成やサポートに取り組んでいることを説明。

また、医学生・看護学生の実習の受け入れだけでなく、中高生への出前授業も行い、地域医療の魅力を伝える一方で、豊かな自然環境の中で子育てができることも強調した。

その上で、自分がやりたい医療を行うためには、医療制度に現場の意見からの質問に回答した。



全編

中医協（4月23日）

令和8年度診療報酬改定に向け、
医療機関を取り巻く状況を確認

省事務局より、
(1) 医療需要と医療費に関する概況、(2) 医療機関の経営状況、(3) 現状と課題——に分けて医療機関を取り巻く状況についての報告が行われたが、今回の報告は令和8年度改定に向けた主な検討スケジュールの審議の際、厚生省事務局側から、通常審議に先立ち、「医療機関を取り巻く状況や、医療提供体制・地域医療構想について議論すべき」との提案があり、了承されたことと実施されたものである。

(1) では、①インフレに伴い人件費も上昇しており、医療関係職種の賃金も例外ではないものの、産業全体の平均には及んでいない②国民医療費は全体として増加傾向にあり、入院・外来の1日当たり医療費も同様となっている③患者数は2020年度に大きく減少したものの、その後、2023年度にかけて回復が見られる——こと等が報告された。

(2) では、2022～2023年度に掛けた医療法人の経常利益率について、①平均値及び中央値はどの類型（病院・無床診・有床診）も低下傾向②最頻値は0.0～1.0%——とされた他、事業利益率はどの病院類型においても低下傾向にあり、病院の100床当たり事業収益は増加しているものの、それ以上事業費用が増加していることが、事業収支悪化の要因であるとされた。

(3) では、支出が増加している現状分析の結果として、①病院100床当たり常勤換算従業者数②医療関係職種の給与

地方と救急

コロナ禍で減少していた救急患者数は、5類移行を経て、私の住んでいる地域で増加している。少子高齢化で人口が減少する中、高齢者の救急患者の増加は予想されていたが、小児の増加が顕著だ。

何をもちて救急とするかは、市民と医療関係者とは認識が異なると思われる。この点は、啓発をしながら相互の認識をすり合わせ、市民の不安

を払しょくするための仕組みを工夫していくことが求められる。

救急医療については、全国的にもその運営は経営的な問題、マンパワー確保の観点から難しい時期に差し掛かっている。当地区では初期救急医療体制として、夜間急患診療所（内科、小児科）、休日救急当番医（内科、外科、小児科）制度で運用しているが、医師及び

診療科の偏在と高齢化の問題から、特に小児科の運用が行き詰まってきた。

とりわけ、休日救急当番医は、夜間急患診療所の出務に加え、年間6回程度の割り当てがある。診療所の医師は何とか頑張るとして、職員が疲弊して対応しかねるケースも出てきている。

他産業に比較して賃上げのペースが遅い医療機関では、職員の職務の荷

映画「フロントライン」の
鑑賞ペアチケットを200組400名様に
プレゼント

本年6月13日より全国公開される予定の映画「フロントライン」のチケットを200組400名様にプレゼントすることといたしました。

下記の応募方法に従って、奮ってご応募願います。

なお、上映館など、詳細は公式ホームページをご参照願います。

◆応募方法：

①右記の二次元コードを読み込み、日本医師会LINE公式アカウントを友だち登録（既に登録されている方はトーク画面に飛びます）

②配信の設定と応募フォームへの回答

③応募完了！

※応募は一人1回に限らせて頂きます（複数回の応募は無効とさせていただきます）。

※当選者には、LINEで通知をさせていただきます。

◆応募締切：2025年5月30日（金）

午後11時45分まで

◆問い合わせ先：日本医師会広報課

☎ kouhou@po.med.or.jp



申し込みはこちら



フロントライン
公式
ホームページ

額③従事者の年齢上昇に伴う人件費——が上昇していること、その要因として、薬剤費、病院・診療所の建築単価の増加があるとの説明がなされた。

また、今後の課題として、①近年の医療機関の経営状況やその要因②特に病院における、収益の増加を超える費用（人件費・材料費・委託費等）増加の要因③医療機関の収支の状況を踏まえた診療報酬の評価の検討を行うに当たり、更にどのような分析が必要か——の3点が挙げられ、議論が行われた。

議論の中で、長島公之常任理事は、①昨今の物価上昇等により医療機関の経営は非常に厳しい状況になっており、日進月歩する医療の技術革新への対応もできていない②次回改定の最大の課題は「他産業に負けない賃上げができるよう、医療機関収支を改善させること」であり、そのためには当然、診療報酬の引き上げが必要③これまでの改定では、引き上げにさまざまな条件が付されることで、医療機関にはより多くのコストを費やすことを求められてきたため、経営に余裕が生まれることはなく、むしろ体力が削がれてきた④昨今の物価・賃金の上昇で、もはやこれまでのようなやり方では、医療機関経営は安定しない⑤純粋な形で診療報酬引き上げが必須という認識を議論のスタートラインとすべき——などと主張。

その他、今後の議論に当たっては、「インフレの進行状況を鑑みると、2023年度の概況を示す資料では不十分」と指摘。医療機関の窮状が明らかとなるよう実態に近い資料を基に議論を行うべきとした。

茂松茂人副会長は、長いデフレ下にあっても国民医療費が増加しているとの指摘に対して、「高齢者の増加に伴う自然増であり、その伸びを自然増の範囲に収めなければならぬ」と反論。その結果、日本の医療水準が低下し、世界と比べて大きく後れを取っているとして危機感を示した。

今後、中医協では今回の長島常任理事らの要望を踏まえ、より実態に近いデータを基に、診療報酬改定に向けた議論が行われることになっている。

純粋な形で診療報酬の引き上げを——
長島常任理事

更に、同常任理事は医療機関の収支を踏まえた診療報酬の評価の検討を行うに当たり、どのような分析を行うのか厚労省事務局に確認するとともに、多くの医療機関が足元の資金繰りに苦心していることから、税金の支払い及び借入金の返済を含めた資金繰りの実態の分析を行うよう要望した。

その後、中医協では今回の長島常任理事らの要望を踏まえ、より実態に近いデータを基に、診療報酬改定に向けた議論が行われることになっている。

2023年度の概況を示す資料では不十分」と指摘。医療機関の窮状が明らかとなるよう実態に近い資料を基に議論を行うべきとした。

茂松茂人副会長は、長いデフレ下にあっても国民医療費が増加しているとの指摘に対して、「高齢者の増加に伴う自然増であり、その伸びを自然増の範囲に収めなければならぬ」と反論。その結果、日本の医療水準が低下し、世界と比べて大きく後れを取っているとして危機感を示した。

今後、中医協では今回の長島常任理事らの要望を踏まえ、より実態に近いデータを基に、診療報酬改定に向けた議論が行われることになっている。

開設者である医療法人が損害賠償請求を受けた場合の備えは大丈夫ですか？

日医医賠責保険は会員個人を対象としているため、法人に対して損害賠償請求を受けた場合、保険金が支払われない場合があります。

日医医賠責特約保険では、開設者である医療法人に対して損害賠償請求がされた場合にも保険金支払い対象となります。

日医医賠責特約保険 中途加入のすすめ

日医医賠責保険の特色を継承し補完する日医A会員の任意加入保険です

加入を
おすすめする
A会員

法人の責任部分の賠償にも備えたいA会員

非A会員が起こした医療事故につき、開設者・管理者としての賠償にも備えたいA会員

高額賠償の支払い（1事故3億円、保険期間中9億円まで）に備えたいA会員



詳しくはこちら



日医医賠責特約保険の内容・依頼書の入手については日本医師会ホームページをご覧ください。 <https://www.med.or.jp/doctor/ibaiseki/>

（上記2次元コードからもご覧頂けます）

南から北から

愛知県
名古屋医報
第1520号より

ね・ね・粘土
林 浩之



開業して間もない秋、息子が通う幼稚園から、親子の工作教室という案内が届きました。「粘土で恐竜を作ろう」というタイトルを見た途端、すっかり忘れられていた忌まわしい記憶が私の頭によみがえってきました。

私達が小学生の頃、粘土と言えは油粘土でした。深い緑色をした塊でとても重く、学校へ持っていくのが大変でした。固まることはないので、何度でも作り直すことができたのですが、軽い力で容易に形が変わるため、時間を掛けて作ったお気に入りの作品が保存しにくいことが難点でした。

私は、粘土の授業はあまり好きではありませんでした。粘土には「ひまし油」が入っていて、作業の後に手に油が付くのが嫌だったのです。どれだけ手洗いをしても、給食の時に手には匂が残っていました。不快でした。またカバンの中に放置しておくと、いつの間にか油が勝手ににじみ出て、周りのノートや教科

書が汚れることもあり、できれば持ち運びをしたくはありませんでした。小学4年生の時、粘土細工の課題は動物でした。あれこれと悩み、皆とアイデアが重ならないよう鶏に決めました。凶鑑の写真を参考にしながら、オスの鶏が前を向いて座っている姿を作っていました。他の子が取り組んでいるゾウやライオンなどに比べると地味な動物でしたが、それなりの存在感を出すことはできているのではないかと感じていました。

授業の残り時間が15分になり、先生から作業終了の合図がありました。ここからは、皆の作品を鑑賞して感想を述べ合うのです。無傷だったキリンは、とても好評でした。その横に並んだ私の鶏は、顔が変形し鶏冠が折れ、体には床のゴミがたっくさん付いていました。立っている姿も表現できなかった。体は変な方向を向いてしゃがみ込み、生命感があふれる作品とは掛け離れたものになりました。隣の子は何度も謝っていましたが、

偶発的な出来事で粘土の特性でもありますから、仕方がありません。先生も事情を知っていたので、また頑張ろうと慰めてくれました。しかし私は、次に作る機会があるなら絶対に四つ足動物にしようと思ひ定めました。その後は粘土とは縁が切れていたのですが、幼稚園行事であり家族の共同作業ですから、参加しなくてはなりません。覚悟を決め幼稚園へ行くのは紙粘土でした。軽くて使いやすい、自然乾燥により硬くなるので、固まったら安心して別の作業ができます。また今回は、あらかじめ針金やひもで芯を作ってから粘土を盛り付けていくので、二本足でも倒れる心配はありません。しかしそれでも私は、過去の苦い経験が踏まえて、息子には四つ足恐竜トリケラトプスを作るように勧めました。半日かけて完成した恐竜は、20年経った今でも形を保ち、納戸の奥に保存されています。

一緒に恐竜を作った息子は、春に臨床研修を終え専攻医になります。粘土作品を見つめながら時の移ろいを感じ、これから経験するさまざまな医療業務の中で、四つ足恐竜のように力強く邁進して欲しいと願うところです。（一部省略）

9歳違いの兄は、私が幼い時はよく遊んでくれた優しい兄だったが、その頃は帰省しても何やら難しいような本ばかり読んでいた。近寄りがたい存在だった。それでも、結局兄と二人で大阪行きの夜行列車に乗りこんだ。列車内でもほとんど会話はなかった。

「太陽の塔」がその姿を現した時は、さすがに期待で胸が高鳴り、ゲートを抜けると、そこには今まで見たこともない巨大なユニークな形をしたパビリオンが建ち並ぶ別世界が広がっていた。しかし、私の目指す人間洗濯機などを展示する人気のパビリオンはどこも長い行列。兄はそんなことを構いなしに、私にはなじみのない国名の閑散としたパビリオンばかりを選んで入っていく。意を決して、『月の石』を見たいと直訴したが、『石コロ見たってしょうがないじゃろが！』とバツサリ。

夕方になって早々に会場を出ると、兄は何を思ったのか、宿泊先のユースホステルの近くにあった馬場に私を連れ出した。疲労困憊の私だったが、静寂の中に蹄の音だけが心地よく響く夕焼けの景色に、気持ちが随分和んでいったのを憶えている。多くの外国人を含む慣れない人混み、ギラギラした人工的で抽象的な映像、大音量の音楽が鳴り響く会場から解放されたからだろう。この時の赤焼けの景色が、今でも脳裏に焼き付いている。宿に戻ると卓球や将棋をして、久しぶりに兄と楽しい時間を過ごすことができた。

万博が閉幕した数カ月後に三島由紀夫が自決し、学生運動も終焉に向かい、この頃を境に日本の若者像はすっかり変わったように思う。あれから半世紀以上が過ぎ、科学技術の急速な進歩で、スマホを始めとするIT機器が普及し生活はますます便利で快適になっていく。反面、仮想現実の世界に溺れた依存症の若者が増えていると聞く。SNSでは顔が出ないことをいいことに、『月の石』のような真偽不明の情報溢れ、誹謗中傷がまかり通っている。生成AIなるものは、人間に代わって好きな題材で小説や絵画などを創作し、

もて芯を作ってから粘土を盛り付けていくので、二本足でも倒れる心配はありません。しかしそれでも私は、過去の苦い経験が踏まえて、息子には四つ足恐竜トリケラトプスを作るように勧めました。半日かけて完成した恐竜は、20年経った今でも形を保ち、納戸の奥に保存されています。

一緒に恐竜を作った息子は、春に臨床研修を終え専攻医になります。粘土作品を見つめながら時の移ろいを感じ、これから経験するさまざまな医療業務の中で、四つ足恐竜のように力強く邁進して欲しいと願うところです。（一部省略）

9歳違いの兄は、私が幼い時はよく遊んでくれた優しい兄だったが、その頃は帰省しても何やら難しいような本ばかり読んでいた。近寄りがたい存在だった。それでも、結局兄と二人で大阪行きの夜行列車に乗りこんだ。列車内でもほとんど会話はなかった。

「太陽の塔」がその姿を現した時は、さすがに期待で胸が高鳴り、ゲートを抜けると、そこには今まで見たこともない巨大なユニークな形をしたパビリオンが建ち並ぶ別世界が広がっていた。しかし、私の目指す人間洗濯機などを展示する人気のパビリオンはどこも長い行列。兄はそんなことを構いなしに、私にはなじみのない国名の閑散としたパビリオンばかりを選んで入っていく。意を決して、『月の石』を見たいと直訴したが、『石コロ見たってしょうがないじゃろが！』とバツサリ。

夕方になって早々に会場を出ると、兄は何を思ったのか、宿泊先のユースホステルの近くにあった馬場に私を連れ出した。疲労困憊の私だったが、静寂の中に蹄の音だけが心地よく響く夕焼けの景色に、気持ちが随分和んでいったのを憶えている。多くの外国人を含む慣れない人混み、ギラギラした人工的で抽象的な映像、大音量の音楽が鳴り響く会場から解放されたからだろう。この時の赤焼けの景色が、今でも脳裏に焼き付いている。宿に戻ると卓球や将棋をして、久しぶりに兄と楽しい時間を過ごすことができた。

万博が閉幕した数カ月後に三島由紀夫が自決し、学生運動も終焉に向かい、この頃を境に日本の若者像はすっかり変わったように思う。あれから半世紀以上が過ぎ、科学技術の急速な進歩で、スマホを始めとするIT機器が普及し生活はますます便利で快適になっていく。反面、仮想現実の世界に溺れた依存症の若者が増えていると聞く。SNSでは顔が出ないことをいいことに、『月の石』のような真偽不明の情報溢れ、誹謗中傷がまかり通っている。生成AIなるものは、人間に代わって好きな題材で小説や絵画などを創作し、

実在する人物の発言や行動を捏造することも可能とのこと。映画「ターミネーター」の世界が現実味を帯びてきた。昨年の夏の記録的な猛暑や未曾有の豪雨など異常気象がもたらした自然災害は、地球規模の温暖化による影響だろう。人類は、人間性や自然環境を損なうことなく、調和のある進歩を遂げているのだろうか。爺さんになったアナログ人間の私は、資格確認などデジタル庁が推し進める情報システム改革のふるいからこぼれ落とされまいと必死にしがみついている。孫と手をつないで、秋の日のつるべ落としなどまったり眺めたいと思ったが、孫はスマホやゲームで子ども向けYouTubeに夢中だ。目医者の孫のくせに。21世紀を見ることになった兄だが、ひょっとするとこんな未来をあの頃既に予感していたのではないだろうか。しかし、そんな兄だけでなく当時のいったい誰が、日本の若者がメジャーリーグで二刀流の大活躍をし、チームのワールドチャンピオンにも貢献し、三度目のMVPも受賞するような未来を想像できたのだろうか。そんなとりとめもない事を考えてしまった。というわけで、私の万博の思い出は、兄との最初で最後の二人旅の思い出だ。（一部省略）

広島県
広島市医師会だより
NO.705より

日本万国博覧会の思い出 佐久間 修



今年の大阪・関西万国博覧会は膨大な財政負担や参加国の相次ぐキャンセルで、その開催さえ一時危ぶまれたようだ。そんな報道を耳にし、1970年やはり大阪で開催された日本万国博覧会（以下万博と略）のことを思い出した。

TDLやUSJなどの巨大テーマパークなるものがまだ日本に無かった時代で、日本中が万博熱に沸き返り、特に子ども達は漫画雑誌などに掲載されたその特集記事を夢中で読んでいた。この時

は、春に臨床研修を終え専攻医になります。粘土作品を見つめながら時の移ろいを感じ、これから経験するさまざまな医療業務の中で、四つ足恐竜のように力強く邁進して欲しいと願うところです。（一部省略）

9歳違いの兄は、私が幼い時はよく遊んでくれた優しい兄だったが、その頃は帰省しても何やら難しいような本ばかり読んでいた。近寄りがたい存在だった。それでも、結局兄と二人で大阪行きの夜行列車に乗りこんだ。列車内でもほとんど会話はなかった。

「太陽の塔」がその姿を現した時は、さすがに期待で胸が高鳴り、ゲートを抜けると、そこには今まで見たこともない巨大なユニークな形をしたパビリオンが建ち並ぶ別世界が広がっていた。しかし、私の目指す人間洗濯機などを展示する人気のパビリオンはどこも長い行列。兄はそんなことを構いなしに、私にはなじみのない国名の閑散としたパビリオンばかりを選んで入っていく。意を決して、『月の石』を見たいと直訴したが、『石コロ見たってしょうがないじゃろが！』とバツサリ。

夕方になって早々に会場を出ると、兄は何を思ったのか、宿泊先のユースホステルの近くにあった馬場に私を連れ出した。疲労困憊の私だったが、静寂の中に蹄の音だけが心地よく響く夕焼けの景色に、気持ちが随分和んでいったのを憶えている。多くの外国人を含む慣れない人混み、ギラギラした人工的で抽象的な映像、大音量の音楽が鳴り響く会場から解放されたからだろう。この時の赤焼けの景色が、今でも脳裏に焼き付いている。宿に戻ると卓球や将棋をして、久しぶりに兄と楽しい時間を過ごすことができた。

スマホ・パソコンでお手続きはカンタン!!

日本医師会
医師年金

Step 1 アニメーションで仕組みを確認

Step 2 シミュレーションで保険料を試算

Step 3 一括払専用加入申込書 プリントアウトで申込み
(保険料のお支払いは後日ご案内します)

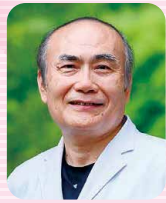
20220401S24

勤務医のページ

能登半島地震への対応を経験して ～勤務医としての心構え～

石川県医師会理事／

国立病院機構金沢医療センター院長 阪上 学



地震への関与はJMAT
による支援を抜きには語
れない。能登地区への対
応はもちろんのこと、避
難先となった石川県南部
エリア、特に1・5次や
2次避難所での活動が大
きな力となった。

自分自身の災害医療への関与

私自身は2006年にDMAT隊員となった。当時の研修受講者は救急系医師が中心で、災害現場での活動研修が主であった。内科医である自分とは分不相応と感じたのを記憶している。しかし、その後の実災害に基づき、DMAT活動は病院支援

師会活動は重要である。

**地元の勤務医として
感じた災害医療**

地元の勤務医の一員としてその役目を考えた場合、DMATのように直接支援を行う医師の存在は重要であるが、直接的な活動をしない勤務医であっても、搬送で受け入れられた傷病者や、被災地で治療継続できない患者の診療業務は重要である。また、直接支援にて病院を空ける医師の日常診療のバックアップも必要である。更に各地から支援に入る多くの医療者はその地域の土地勘はもとより、地元の人的リソースに関しての知識が少なからずある。地元の勤務医は、これらリソースへのつなぎ役や情報提供も重要な役目となる。

避難所
0人/350力所

避難所
5人/350力所

想定外を想定した
活動・準備の必要性

さて、ほとんどの病院には災害マニュアルや事業継続計画（BCP）が存在しているはずであ

2024年4月の医師
の働き方改革施行から、
1年が経過しようとして
いる。当院では2023

勤務医のひろば

循環器内科の働き方改革の現状

～河北総合病院の場合～

河北総合病院心臓血管疾病センター
循環器内科副部長 石原龍馬



年度中から、各診療科の責任者と人事部で、現在の勤務形態として採用している「1カ月単位変形労働時間制」について調整を行ってきた。簡単な概要は、(1) 1日7・5時間、週37・5時間換算で、月の労働時間を算出し、日勤も当直(夜勤)も全てを勤務時間とカウントして、月の決まった労働時間を満たすように個人ごとにシフトを組む、(2) 当直明けは休み扱いとし、明けに外来や検査がある場合は、時間外勤務として申請する。——というものである。

正直、医師の仕事とは

思えなかったが、循環器内科という時間外勤務が多くなりがちな科であるため、「労働時間が短くなる」と給与が減るのではないか」という懸念があったこともあり、それなりに真剣に取り組み、上手くいく見込みで新年度を迎えることができた。結果としては、循環器内科スタッフの時間外労働の平均が30時間未満で、給与水準も横ばいを維持し、スタッフからもおおむね好評で、順調な改革だと判断している。

とはいえ、当科のように働き方改革が順調な循環器内科ばかりではない

ようである。先日、CCCU研究会という、東京都内の心臓救急に関わる医療機関の会で、各病院の働き方改革の現状についてのシンポジウムがあった。各病院へのアンケートでは、働き方改革施行前後で、労働環境が全くあるいはほとんど変わらない病院が半分くらいあったことに驚いた。医師の働き方改革の影響により、大学病院で循環器内科へ入局する医師が減っているという現状もあり、循環器領域で改革が推進されるかは不透明と言わざるを得ないと考えている。

災害医療支援のあり方 に関して

今回の能登半島地震では、被災地の医療機関や高齢者施設等から、金沢以南に避難を余儀なくされた人が多く存在した

ターとして対応した経験に基づき、勤務医として必要と感じた事項を記載した。参考にして頂ければ幸いである。

と、更にはその後の地域の復興に対して大きな痛みを伴う行動であることを、我々は知っておく必要がある。避難ありきではなく、どうすれば避難せずに済むか、仮に避難が優先されるとしても、避難先で地域のコミュニティを維持できるかを考えておく必要があると感じた。

ご加入条件

- 20歳以上60歳未満の国民年金第1号被保険者の方
- 60歳以上65歳未満で国民年金に任意加入している方

※主に、個人立診療所の医師・従業員・ご家族などとなります。

※日本医師会年金(医師年金)に加入している方もご加入できます。



～税優遇を活かして老後への備え～

国民年金基金

**国民年金(老齢基礎年金)に上乗せする
終身を基本とする「公的な年金制度」です。**

ポイント
3つの
税制メリット

- 掛金全額が社会保険料控除の対象
- 受け取る年金は公的年金等控除が適用
- 遺族一時金は全額非課税

全国国民年金基金

日本医師・従業員支部

 0120-700-650

**HP上でも資料のご請求・
シミュレーション・加入申出
のお手続きができます！**



醫師支部 検索

日本医師・従業員支部は、「日本医師会」を設立母体とする日本医師・従業員国民年金基金が移行した医師・医療従事者のための職能型支部です。